

別紙3 平成 28 年度 学校関係者評価書 作成日: 3月 2日 国分寺市立 第二中 学校 校長名 重松 靖

| | | |
|-----------------------------|----------------------|--------------------|
| 教育目標 : ○自ら学び 創造する | ○心豊かに 互いを尊重する | ○健康で たくましく生きる |
| めざす学校像 : ○学ぶ喜びが実感できる学校 | ○ふれあう喜びが実感できる学校 | ○夢を育む学校 |
| めざす生徒像 : ○向学心に燃える生徒 | ○瞳輝き 笑顔あふれる生徒 | ○自己実現を目指す生徒 |
| めざす教師像 : ○教育に対する熱意と使命感に富む教師 | ○一人一人の良さや可能性を引き出せる教師 | ○研修意欲に富みお互いに高め合う教師 |

| 領域 | 中期目標 | 短期目標 | 具体的方策 | 努力指標 | 努力指標 | 成果指標 | 成果指標 | 今後の課題 | 学校関係者評価記入欄 |
|-----------|--|---|---|---|----------|----------|----------|--|--|
| | | | | (中間) | (最終) | (中間) | (最終) | | |
| 学力の向上 | 学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感できる授業を工夫し、確かな学力の向上を図る | 小中連携の視点から授業改善を進め、「できた!」「わかった!」が実感できる授業、思考力・判断力・表現力を育む授業を実践する | 「わかる授業」「楽しい授業」を実践するために、教員が積極的にICT機器を活用する | / | 3 | / | 4 | 教員の「楽しくわかりやすい授業」を実践しようという意識が、生徒の実感に繋がっている。今後、ICT機器の活用をさらに積極的に進めるために、施設面の充実に加え、活用頻度を高め、操作技能を習得し、現状で効果のある授業実践を行っていく。 | 「授業が分かりやすい」という生徒の肯定的な評価の中でも「とてもよい」「よい」の比率を見て分析できると同時に、また、ICT機器を使用できる場面を適切に捉えるためにも、授業実践を増やしていくことが大切であり、そういった教員の意欲が生徒に伝わるだけでも、生徒の学習意欲につながるのではないかと。 |
| | | | 各教科で、学習のねらいを明確にし、本時の目標を示して授業を展開するとともに、授業の振り返りを必ずさせる | 4 | 3 | 3 | 3 | 生徒がわかる喜びを実感できる授業にするために、授業のねらいや目標をしっかりと示し、生徒が見通しを持って学習できる工夫が必要である。また、授業改善推進プランに基づいた意識的な努力や工夫を昨年に引き続き定期的に継続させる。 | 生徒が授業の中で何を学ぶのかをはっきりすると授業の効果はより大きなものになるのではないかと。今後は授業のめあてや振り返りを生徒に示して欲しい。また授業改善推進プランについては、教員が目指す方向性がより明確になるよう、さらなる工夫をして欲しい。 |
| 豊かな人間性を育む | 多くの人とふれあいながら、自己肯定感を高め、他を思いやる心や感動する心などを育み、夢と希望をもって生きる生徒を育てる | 学級活動や、特別支援学級との交流、異学年交流など、多くの人とふれ合うことを通して思いやりの心を育み、いじめのない学校にする | 生徒会を中心としたあいさつ運動を行うとともに、「いじめ防止教育プログラム」を活用し、いじめを撲滅する | 4 [3] | 4 [4] | 3 [4] | 3 [4] | 生徒の実感が教員の取り組みに対して低いのは、生徒のいじめに対する意識が高まっていることが原因と考えられるが、教員一人一人がさらに人権感覚を養い、生徒がより安心して学校生活を送ることができるよう、日常からの見守りを積極的に進める。 | いじめ防止に対する教員の意識は高まっているので、その意識が生徒に伝わり、「いじめがない」と子どもたちが実感できる学校を目指して欲しい。そのためには、教員のさらなる意識の向上と生徒を近くで見守り、常にアンテナを高く持って教育活動を行って欲しい。 |
| | | | 様々な行事に主体的に取り組み、達成感を味わわせ、自己肯定感や自尊感情を高める | 運動会や合唱コンクール等の学校行事や委員会・係活動に主体的・積極的に取り組めるよう指導する | / | 4 [4] | / | 3 [4] | 教員の熱意が、生徒の意欲の向上や達成感につながったと言える。この姿勢を大切にするとともに、生徒自身に考えさせ、主体的に活動したと実感できる指導を今後も工夫・研鑽し、より質の高い、皆が誇れる学校づくりを目指していく。 |
| 信頼される学校 | 特色ある教育活動を推進し、地域や小学校から信頼される学校を創造する | 学区域内小学校との交流を推進するとともに、地域とも連携し、安全で安心できる地域づくりに貢献する | 地域と連携した安全教育、学区域内三つの小学校と作品交流等を含めた交流を積極的に進める | / | 4 [4] | / | 3 [3] | 今年度は地域との交流だけでなく、小学校に読み聞かせに行く等の交流も行ったが、全校生徒の交流に対する意識や達成感に繋がっていない。今後もイベント的、日常的な交流を増やし、PRIにも力を入れていくことで連携が目に見えるものとなるようにする。 | 地域や近隣小学校との交流は増えているが、参加した一部の生徒だけの達成感になっているところもある。二中全体の取り組みとして、全校生徒にPRしていくことも大切である。また、七小がコミュニティースクールであるため、小学校の取り組みに比べると生徒は物足りなさを感じるのかも知れない。 |
| | | | 学校の情報を積極的に発信し、学校に対する理解を深める。 | ブログ、ホームページを充実させるとともに、教育活動の成果を学区域内小学校へ積極的に発信する | / | 4 [4] | / | 4 [4] | 日常の活動や行事の様子などをホームページや学校・学年だよりで適宜紹介したり、地域会議等で生徒の様子を紹介してきたことが成果につながっている。今後も学校ホームページ、ブログや各種たよりの内容充実により、情報発信に更に力を入れる。 |

[]内の数値は前年度

回収率 : 保護者 88.8 % 生徒・教員100%